大妻中野中学校･高等学校　令和５年度重点課題

２－１　入試広報

(1) スクールミッションに基づいた中野校の教育の特徴・独自性を積極的に広報
① ユネスコ・スクールや SGH ネットワークの加盟校としての活動や様々な特色あるグローバル教育を、アドバンストコースの生徒募集にも積極的に発信する態勢を強化する。
② 地球市民的視野を持ったリーダー育成を目指す具体的取組を､教科、学年、分掌の授業や課外で､横断的につなぎ、可視化し、共有、発信できる仕組みを構築する。
③ 国内生、帰国生、転入・編入生などの多様な生徒を受け入れる体制、個に応じた柔軟な教育体制が進路実現につながっている学校であることをさらに周知する。

(2) 広報戦略及び生徒募集・広報活動の改善
① オンサイト・オンラインの特性を活かした広報戦略、募集活動イベントを設定する。
② 働き方改革の流れに沿った広報業務のスリム化を検討する。
③ 私学協会の指針に基づき、オンライン入試など柔軟な入試形態の設定を検討する。

２－２　学習指導

(1) 学力向上に向けた学習指導
① 授業充実のための中野校オリジナル冊子「より良い授業」に基づく授業を実施する。
② 中学生の基礎基本事項の定着を図る取組として、MMT（マンデーモーニングテスト）の継続実施とその不合格者への指導として「妻中義塾」を実践する。
③ MMT や授業中の小テストの不合格者に対するチューターシステムを利用した追指導を整備する。
④ 英語及び数学検定の学年取得目標値を設定し、その達成に向けた指導を実施する。

(2) 新しい学力観、学習観に基づいた授業実践の研究と導入
① 全授業対象で「探究的学びのスタイル」を取り入れた学習シラバスを作成、共有する。
② 教員の発想や取組を活かし合う環境設定、外部有識者との積極的な連携を実施する。
③ 大学受験・合格・進学データにおいて、生徒のグロ―バル経験、探究的学びの履歴などとの相関を加味し、模試偏差値だけでない新しいデータを整備、活用する。

(3) 本校の特色ある課外活動を活用した生徒の主体的な学びの研究と実践
① ユネスコ・スクールの各種大会、研究会などへ、それぞれの授業単位で積極的に参加し、発表し、他校と連携し、学び合う機会を奨励する。
② WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）校や SGH（スーパーグローバルハイスクール）ネットワーク校の学びのプログラム、研究発表の場に生徒が積極的に参加し、その成果を、授業や課外学習などにおいてフィードバックできる機会を設定する。
③ フロンティア・プロジェクトなど、本校独自の生徒主体の活動チームや個々の生徒の先進的な取組をさらに進化、外部機関との一層の協働を促進する。

２－３　進路指導

(1) キャリア教育
① 各年の発達段階に沿った本校のプログラムを継続実施していくとともに、学校行事全体との関係についてねらいと目的という観点から改善を検討する。
② 取り組んだ活動について、振り返りの時間を設定し、自ら PC に記録し保管する指導を継続する。
③ 地球市民教育を実践する学校として、世界とつながり、多様な文化を持つ人たちとの共生に貢献するキャリアを生徒が考え、将来設計に活かす支援環境を設定する。

(2) 進学力向上
① 「学力の３要素」を育成することを目指し、これからの多様な大学入試に対応する。
② 年度始め戦略会議で教科達成目標値、学年の進学力向上プログラムを策定する。
③ 意欲的な中学生や高校生を対象として、平時の早朝や放課後に発展講習を実施する。
④ 各学期の初めの職員会議で、前学期の外部模試の検証を行うとともに、目標値達成に向けた取組を各学年の進路担当者が発表、改善方向を共有する。
⑤ 第１回高校３年生保護者対象進路ガイダンスをコロナの感染状況を見ながら、できるだけ対面で実施、他学年は映像配信で実施する。

(3) 高大連携
① 大妻女子大学の出張授業、同大学文学部の公開授業への参加を促進する。
② 高校３年生対象の大学説明会を 10 月に複数の大学の入試広報担当者により実施する。

(4) 今後変化する大学入試指導への対応と実践
① 大学入試がよりグローバルな形へ変化していることを踏まえた指導を検討、実践する。

② 国際併願、海外大学への進学指導をより一般化させ、エッセイ、志望理由書、インタビュー面接で試されるコンピテンシーを生徒が高められる研究を実践する。
③ 英語４技能試験が、大学入試の Key Competency になっていることへの対応を行う。

２－４　生徒指導

(1) 生徒指導の基本理念
① 校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本理念とし、他者に対する思いやり、寛容、モラルを以て自主的で主体的な行動をとることにより、好ましい友人関係の構築や社会性の涵養を促すことを目指した指導を実践する。
② 部活動が幅広い多様な学びの場となるように、本校「部活動のガイドライン」に沿って生活全般にバランスのとれた活動の展開を推進する。
③ 学校行事、委員会活動において、SDG s など地球課題に取り組むなど、生徒の積極的な参加を促進する。

(2) 自主性・主体性の尊重
① 学校生活において、自主性、主体性を尊重し、自己肯定感を高めるため、自ら学びの目標を設定し、メルクマール（中間目標）の達成状況を自己評価する習慣を身に付ける指導を実践する。
② 自己肯定感を高めるために不可欠な家庭での対応について、保護者の理解を推進する。

(3) 多様性を認め尊重
① 多様な個性をもつ他者との違いを認めると共に、思いやり、寛容の心をもち、連帯感を醸成できるよう生徒集会、ＨＲ、各種行事等の機会をさらに活用する。
② 社会、世界に視野を広げ、多様性の否定が、差別、分断、紛争の原因となっていることを理解し、多様性について正しい思考・行動の在り方を学ばせる指導を実践する。

(4) 安全・安心教育
① ネットに関わるリスク防止の教育をＨＲ、生徒集会で実践する。
② 「いじめ」の非社会性、犯罪性を理解させる指導とともに、早期発見のための定期的な全校生徒対象のアンケート調査を継続実施する。
③ 課題を抱える生徒の対応のため、カウセリングルームと家庭の連携を強化する。

(5) 外部専門家等の活用
① 専門家による茶道、華道などの伝統文化の体験学習や性教育、生き方教育に関する講話を実施する。

２－５　組織体制

(1) 能力開発
① 教員育成用「学校導入版 Find アクティブラーナー」の利用を促進する。
② 入試問題を真剣勝負で解く５教科担当教員対象大学入試問題研究会を継続実施する。
③ 大学共通テストの問題傾向分析会を試験翌日に実施する。
④ 12 月上旬に「授業アンケート」を実施する。
⑤ 定期考査の問題を教員間で公開し、互いに検証できる環境を整備する。

(2) 「新しい学び」に対応する体制
① リベラルアーツ、STEAM 教育、グロ―バル・コンピテンシー、多様性、インクルージョンなどをキーワードとする新しい学びの研究を実践する。
② 教職員やステークホルダーが、日本語話者や日本の組織風土の価値観を持っている人だけではないことを前提とした組織体制を整備する。

(3) 充実した校外ネットワークを活用し、開かれた組織体制としてのより一層の充実
① ユネスコ・スクール加盟校として、国内外の優れた実践をしている学校、組織と連携して、研修や情報交換の機会を設定し、より一層教職員の意識を高める。
② 本校教職員の高い専門性や多様性を尊重し合い、フレキシブルに自由に意見を交換ができるオンライン・インパーソンの両面でのプラットフォームを充実する。

２－６　教育環境の充実

(1) Beyond School の意識を進化させ、授業と授業外がつながる教育環境の一層の充実
① 地球市民教育研究校として国内外の様々な機関・組織との連携、情報共有をより一層進め、その教育リソースの活用可能な教育環境の充実を推進する。
② 留学提携校、海外の学校の教員や生徒の取組を校内で共有する機会を増やす。

(2) ICT 環境の更なる充実を図り、個別最適化への学びの環境のより一層の充実
① ICT の一層の活用を進めるために、その活用法への研修の充実を図る。
② 校内プラットフォーム（TEAMS や manaba）の活用の課題を検討、改善する。